

ヘイトスピーチ

馬田 小学校4年

くぼたのあ
久保田 乃愛

私は、英語教室に通っています。英語教室でいろいろな国の先生と授業をしています。先生たちは、とてもおもしろくて、やさしいです。私が英語がわからない時は、日本語でしゃべってくれるので安心してできます。でも、見た目や話す言葉がちがって差別されていることがあると知りました。

外国人差別について調べると、「ヘイトスピーチ」という言葉がありました。ヘイトスピーチとは、差別する言葉などの悪口を言った

り、インターネットなどのSNSに書いてかっさんしたりすることをいいます。私は、外国人の先生達のいいところをたくさん知っています。ジョークを言って笑わせてくれる所、日本語をたくさん勉強して、私達に分かりやすいようにいていねいに話す所。そんな先生がいるから、次の英語教室がすごく楽しみになります。日本人と外国人のちがいは、顔や体格などの見た目、しゃべっている言葉などいろいろありますが、外国では当たり前のことです。日本では、日本人が当たり前でも、外国に行けば日本人が当たり前でなくなります。

いろいろなちがいやこせいがあるから、楽しいのです。差別する、悪口を言うことに、意味はありません。差別するのはぜったいにダメだと思っています。

みんなと見た目がちがうことは悪いことではないから「ヘイトスピーチ」はダメなことです。だから外国人が日本に来てもしやな気

持ちにならないように、やさしく話しかけたり、仲よく楽しくすごしたいです。日本人も外国人もおたがいのいい所をみとめていくことが大切だと思いました。

当たり前じゃない当たり前

立石小学校4年

うえだ あゆみ
上田 歩実

わたしが初めて目や耳がふ自由な人に会ったのは、三年生の時の福しの学習の時でした。その時初めて知ったことがあります。それは、自分が当たり前と思っていたことが体がふ自由な人にとって当たり前ではないということですよ。

まず、目のふ自由な人の話を聞きました。目が見えないと色々なことがふべんだなと思いました。わたしは本を読むことが好きです。なぜなら、本にはたくさん文字があつて、

色々なことを知ることができからです。でも、目が見えないとわたしが読んでいるような本を読むことができません。そこで、文字の代わりに「点字」という文字を使うそうです。わたしは点字という文字があることは知っていたけど、ボコボコしていてどうやって読むんだろうと思っていました。だけど点字は六つの点のならば方で色々な文字を表せるそうです。点だけでも、組み合わせで色々な文字になると知ってとてもおどろきました。そして、実さいに自分の名前を点字で打たせてもらいました。はりで打つので、えん筆とちがつて消せないと思うと間ちがえたらどうしようときんちようしました。なんとか打て目が見えない人に読んでもらいました。打つ時もわたす時もドキドキしたけど、ちゃんと自分の名前を読んでもらえた時は、とてもうれしかったです。

次に耳がふ自由な人の話を聞きました。わたしたちのまわりには色々な音があります。

朝は目ざまし時計の音で起きたり、人が来たらインターフォンが鳴ったり、時間になったらチャイムが鳴ります。それをわたしは当たり前だと思っていました。でも音が聞こえないとそれは当たり前ではなくなります。耳が聞こえない人は朝起きる時の目ざまし時計は音ではなくしん動する物をまぐらの下において起きるそうで、だれかが来た時は、音の代わりにランプが光って知らせてくれるそうです。また、音が聞こえないので午後五時にチャイムが鳴ることを知らなかったそうです。そして、人と話をするのには手話を使うそうです。手話で「ありがとう」や「ごめんなさい」などのかんたんな手話を教えてもらいました。ひとつひとつはかんたんな手話かもしれないけど、これをたくさんおぼえて会話をするのはむずかしそうだと思います。

また、体がふ自由だとふべんなことがたくさんあると教えてもらいました。点字ブロックの上に物がおかれていると通れなかったり、

道で話しかけられても耳が聞こえないので何を言っているか分からないそうです。

わたしたちが当たり前だと思っていたことは体がふ自由な人にとっては当たり前ではありませんでした。わたしはもっとまわりの人の気持ちや大変さに気づけるような人になってこまっている人がいたら助けていきたいです。そして、みんながくらしやすい世の中になつたらいいなと思いました。

平和について私ができること

立石小学校4年

早野 はやの 愛美 あいみ

人権って何だろうと考えたときに、お母さんが「自分らしく幸せに生きられるようにする権利のことだよ。」と教えてくれました。私は、ごはんを毎日たべたり、テレビが観れたりして、やりたい事ができるので幸せだと思います。でも、テレビのニュースでロシアとウクライナの戦争が三年前からつづいていることを知りました。そして、SNSでウクライナのキーウという首都が攻撃されて、三十一人（うち五人子ども）のぎせい者が出たこ

とを知りました。戦争のえいきょうで私たちで言うふつうのくらしができなくなったたり、とつぜん命をうばわれたりすることに、悲しくなりました。

どうしたら戦争がなくなるのかを考えていたときに、私は、弟とのケンカを思い出しました。私と弟は、二才ちがっていて、好きなこときらいなことも全然ちがっています。ふだんは、仲よくしていますが、おもちゃのとりあいや、観たいテレビがちがうことなど、小さなきっかけで大ゲンカになってしまうことがあります。相手をきずつけるとわかっていても、ケンカがひどくなって、きずつける言葉を言ってしまったたり、たいたいたりして、泣かせてしまうことがあります。でもその時になって、やりすぎたと思い、「ごめんね。」とあやまると、また仲なおりでできます。お母さんに、「ケンカは、小さな戦争だよ。」と言われました。そうだなと思います。その事から、戦争もささいなきっかけから、相手の事や、ほかの人の事

を考えずに、自分のことばかり考えて、きずつけてしまうから起こると考えました。相手の立場になって、言い方や行動を気をつけて、しんちょうにやっていいことを考える事がとても大事だと思いました。もしも、まちがえた行動になってしまっても、「ごめんなさい。」と言う一言を言えることも、とても大事なことだと思っています。思いやりの心があれば、もっと安心できる、平和な世界になって平和がひろがれば、みんなが幸せに、自由に、くらせると思います。私も、世界が平和にどんどんちかづけるように、自分のふだんの生活から、自分がされていやなことは人にはしないようにします。人権の思いやりの心が広がっていいいな、と思いました。

助け合いの心

蜷城小学校3年

ほしの
星野 菜南

私のおじいちゃんとおばあちゃんは、目が見えません。

ふくおかに住んでいるので遊びに行くと、

「ななちゃんこの洋服何色？」

と聞きます。

「黄色。」

と言うと、

「えっ、そんな色だったの。」

とびっくりしたりします。私がない時でもわかるように、知りたい色のものにあてると

「何色です」と教えてくれるきかいを持っています。おばあちゃんは、べんりだとうれしうに話していますが、大へんだなあと思います。

おじいちゃんは、運動のためにさん歩に行きますが、一人では行けません。ヘルパーさんに来てもらって一しよに行きます。

私たちがかんたんにできることでも、目が見えない人にとっては、むずかしいことがたくさんあります。だから、何にこまっているのかに気づいて助けてあげたいです。

目が見えない人や車いすの人や、病気の人や、耳が聞こえない人、けんこうな人が助け合っていかなければいけないと思います。

目が見えないおじいちゃんとおばあちゃんが、大へんなのにごはんを作ってくれる、すごいなと思います。そんなおじいちゃんとおばあちゃんを大切にしたいと思うから、私は、やさしい心をもちたいと思います。

私は、大へんなことがわかったからそのため

におじいちゃんとおばあちゃんが
大へんだなあ
と
思っていることを
考え、
手伝って
がんばって
いき
たい
と
思
い
ま
す。

次から
そう
思
っ
て
遊
び
に
行
き
た
い
と
思
い
ま
す。